

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成 25 年 12 月 19 日 (2013.12.19)

【公開番号】特開 2012-132683 (P2012-132683A)
 【公開日】平成 24 年 7 月 12 日 (2012.7.12)
 【年通号数】公開・登録公報 2012-027
 【出願番号】特願 2010-282414 (P2010-282414)
 【国際特許分類】

G 0 4 B 19/06 (2006.01)

【 F I 】

G 0 4 B 19/06 R

G 0 4 B 19/06 B

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 11 月 5 日 (2013.11.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

光透過性を有する第 1 の板状部材と、光透過性を有する第 2 の板状部材とを備え、
 前記第 1 の板状部材の前記第 2 の板状部材に対向する面には、その頂部付近に平坦部を
 有する凸部が設けられており、

前記第 2 の板状部材の前記第 1 の板状部材に対向する面とは反対側の面には、前記第 1
 の板状部材に対向する面側から入射した光を、反射・散乱させる機能を有する微小な凹凸
 が設けられており、

前記第 1 の板状部材が有する前記凸部は、規則的に配されたものであり、その平均ピッ
 チが $25\ \mu\text{m}$ 以上 $100\ \mu\text{m}$ 以下であり、

前記第 2 の板状部材が有する前記凹凸は、規則的に配されたものであり、その平均ピッ
 チが $10\ \mu\text{m}$ 以上 $25\ \mu\text{m}$ 以下であることを特徴とする時計用文字板。

【請求項 2】

前記第 1 の板状部材が有する前記凸部の平均高さは、 $11.5\ \mu\text{m}$ 以上 $40\ \mu\text{m}$ 以下で
 ある請求項 1 に記載の時計用文字板。

【請求項 3】

前記第 1 の板状部材が有する前記凸部は、凸条であり、当該凸条の長手方向に垂直な方
 向での断面での前記平坦部の幅が、 $2.0\ \mu\text{m}$ 以上 $20\ \mu\text{m}$ 以下である請求項 1 または 2
 に記載の時計用文字板。

【請求項 4】

前記第 1 の板状部材は、時計用文字板を平面視した際に、前記凸部として、同心円状に
 設けられた複数の凸条を有するものである請求項 1 ないし 3 のいずれかに記載の時計用文
 字板。

【請求項 5】

前記第 2 の板状部材が有する前記凹凸の平均高低差は、 $5\ \mu\text{m}$ 以上 $12.5\ \mu\text{m}$ 以下で
 ある請求項 1 ないし 4 のいずれかに記載の時計用文字板。

【請求項 6】

前記第 2 の板状部材は、時計用文字板を平面視した際に、互いに略平行に設けられた複
 数の直線状の前記凹凸を有するものである請求項 1 ないし 5 のいずれかに記載の時計用文

字板。

【請求項 7】

請求項 1 ないし 6 のいずれかに記載の時計用文字板を備えたことを特徴とする時計。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

このような目的は下記の本発明により達成される。

本発明の時計用文字板は、光透過性を有する第 1 の板状部材と、光透過性を有する第 2 の板状部材とを備え、

前記第 1 の板状部材の前記第 2 の板状部材に対向する面には、その頂部付近に平坦部を有する凸部が設けられており、

前記第 2 の板状部材の前記第 1 の板状部材に対向する面とは反対側の面には、前記第 1 の板状部材に対向する面側から入射した光を、反射・散乱させる機能を有する微小な凹凸が設けられており、

前記第 1 の板状部材が有する前記凸部は、規則的に配されたものであり、その平均ピッチが $25\ \mu\text{m}$ 以上 $100\ \mu\text{m}$ 以下であり、

前記第 2 の板状部材が有する前記凹凸は、規則的に配されたものであり、その平均ピッチが $10\ \mu\text{m}$ 以上 $25\ \mu\text{m}$ 以下であることを特徴とする。

これにより、光の透過性（光透過性）に優れるとともに、美的外観に優れた時計用文字板を提供することができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

本発明の時計用文字板では、前記第 1 の板状部材が有する前記凸部の平均高さは、 $11.5\ \mu\text{m}$ 以上 $40\ \mu\text{m}$ 以下であることが好ましい。

これにより、時計用文字板の美的外観を特に優れたものとすることができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

本発明の時計用文字板では、前記第 2 の板状部材が有する前記凹凸の平均高低差は、 $5\ \mu\text{m}$ 以上 $12.5\ \mu\text{m}$ 以下であることが好ましい。

これにより、時計用文字板の美的外観を特に優れたものとすることができる。